測量計算・電子野帳（TS）

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2021/04

Ver3.5.8 で追加、修正された機能を説明します。

・シフト量測定を追加

1、シフト量測定を追加

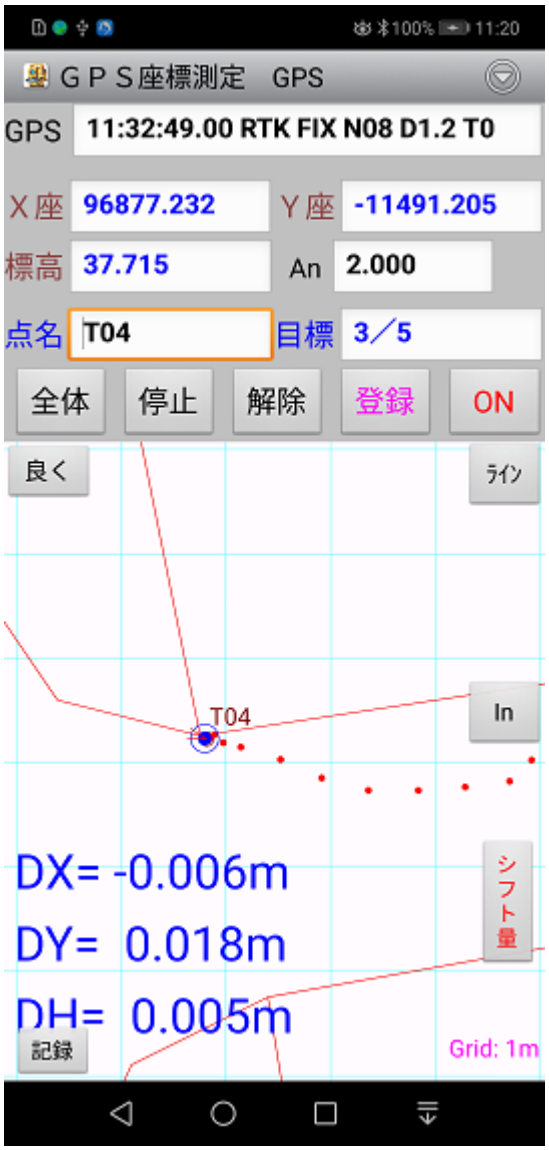
3.5.7 で、シフト量機能を追加しました。
今回は、このシフト量を測定する機能を追加しました。

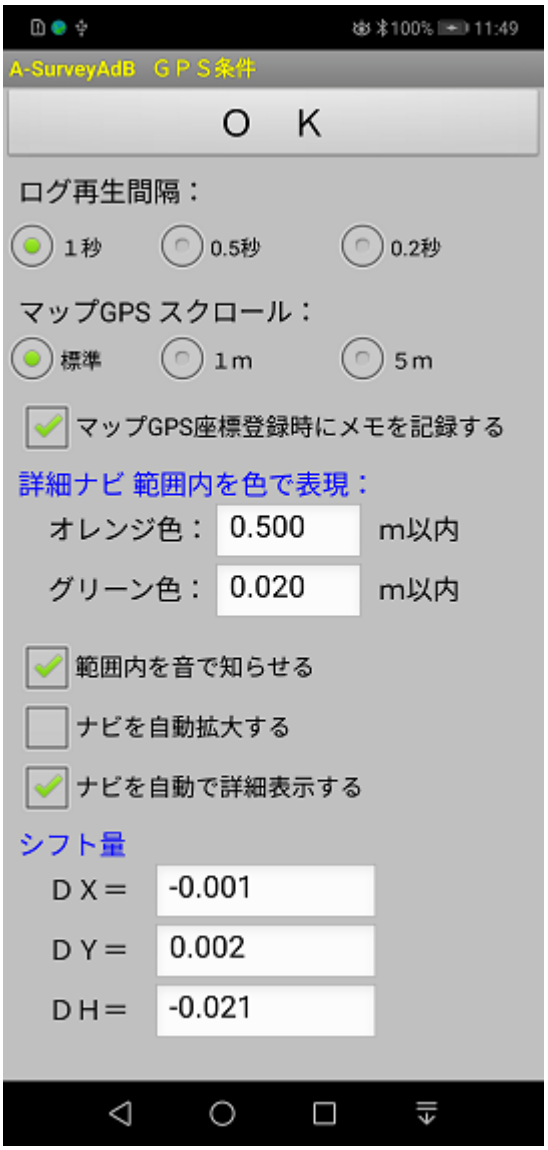
機能は、マルチボタンですので　MultiBton.txt　を更新してください。
60,GPS シフト量
が追加されています。

先ず、下記の画像で左はシフト量が設定されていない状態です。
右は、シフト量が設定されています。
X 座標、Y 座標、標高の文字の色で判断が出来ます。

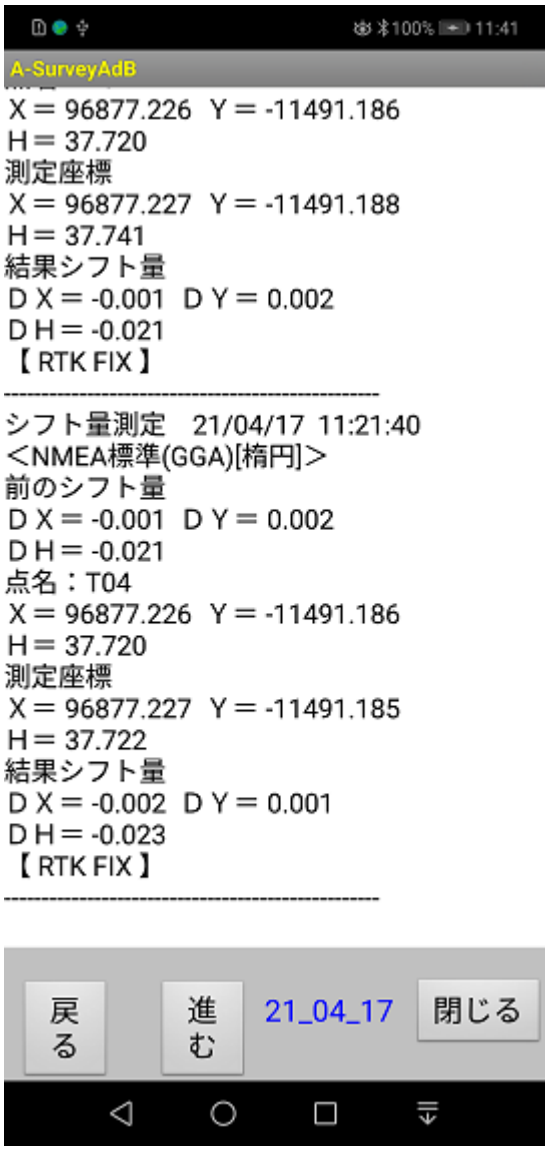
使い方です。
マルチボタンで、「GPS シフト量」を配置します。
「GPS 座標測定」でしか表示されません。

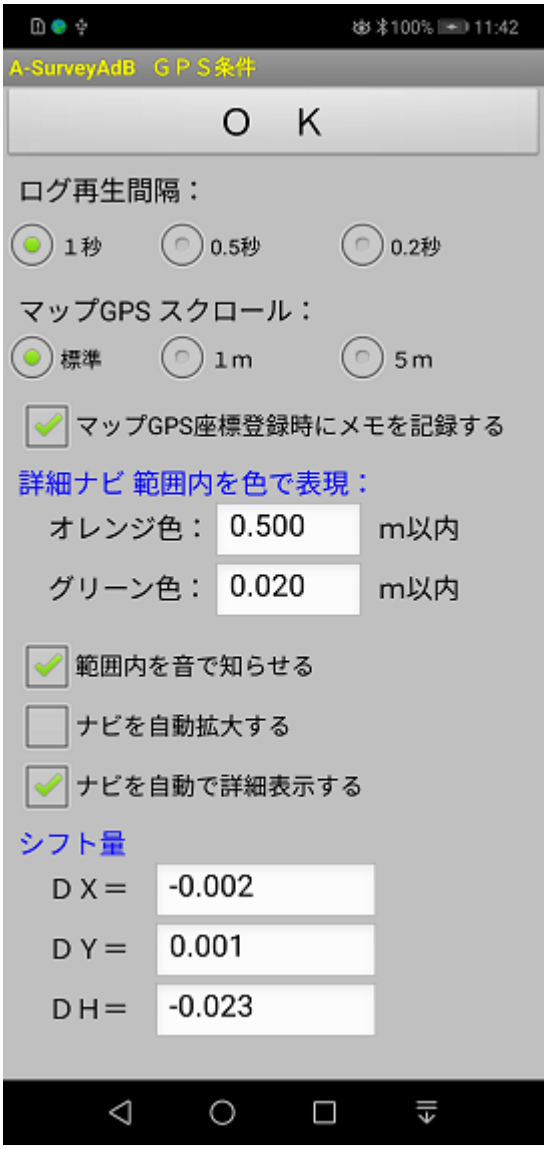
「目標」ボタンで既知点を指示します。
アンテナポールを、固定して測定します。
マルチボタンの「シフト量」を押すと
文字が赤くなり、東西南北の指示文字が
DX,DY,DH に変わります。
この値は、単純に X 座標、Y 座標、標高の差です。
安定した状態で、「登録」ボタンを押します。
「GPS 条件」の“平均回数”分を測定しこの回数の平均でシフト量を決定します。
条件の、“水平”、“標高”、“常に結果を表示する”が有効です。
例では X 座標、Y 座標、標高の文字の色が、茶色の状態で測定していますね。
つまり、シフト量が設定されている状態で、更にシフト量測定を行っているという事です。
右の画面の様に、シフト量は設定されていました。





「登録」ボタンで、記録簿に記録され
シフト量が設定されます。
「現場データ保存」で、現場に保存されます。





例えば、既知点 A でシフト量観測をします。
その後、既知点 B でシフト量観測すると、この時の B の観測値にはシフト量が掛かっていますね。
シフト量観測では、DX,DY,DH が表示されるので、B 点でチェックができます。

また、この状態でシフト量観測し「登録」ボタンでシフト量を保存できます。